

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あすなる
(ユニット名)	さくら棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地
記入者名 (管理者)	宮崎 美代
記入日	平成 19年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>その人らしい生活を支えるサービスを根本的に考えた理念をつくり、1度作ったままで経過している。</p> <p>これまでの理念を見直し、地域密着型サービスの役割を目標した内容を盛り込んだ理念につくりかえていきたいと思う。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>月1回開催する全体ミーティング時の冒頭に職員全体で唱和し、理念の共有を行っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>家族に対しては、あすなる通信や行事等の折にホームのありのままを見ていただいているが、地域住民の方々にはなかなか伝えられないのが現状である。</p> <p>地域で開催される催し事に出来るだけ参加し、地域の方達とふれあう機会を増やしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>ホームで収穫した野菜をお裾分けしたり、散歩時には挨拶を交わしている。駐車場入口にはベンチを置き気軽に座っていただけるようにしている。</p> <p>これからもお互い野菜を配ったりしてふれあう機会を設けていき、ホーム内にも気軽に立ち寄ってもらえるようにしたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>自治会、老人会等の活動には参加していないのが現状である。ただ、地域中学校における職場体験などの受入等を行ったり、今年の「いい汗、ボランティア 夏体験 2007」の受入申込を行い、交流に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	吾妻中学校の「福祉体験」や高校生の「夏休み体験活動」の受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を皆で取り組み、サービスの質の向上に努めている。		自己評価を利用し、入居者の皆さん一人一人に対して何が必要で何を求めているのか職員全員で再確認していきサービスの向上に努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホーム入居者さんの状態、行事の報告等を行っている。		サービスの質の向上に向けた、意見交換は行えてないので、形式ばったものではなく気軽に話せる場を作ってきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「吾妻地域審議会」の委員として審議会、懇親会、合同会議に職員が参加している。参加メンバー「自治会連合会会長・農産加工組合長・JA島原雲仙理事(吾妻)・商工会吾妻支部女性部長・商工会青年部吾妻支部前部長・農業(青年部長)・元体育指導員・前大塚小PTA副会長・婦人会代表etc。」		まだ、福祉に関する突っ込んだ議題等は出ていない為、サービスの質の向上に取り組んでいるとはいえないかもしれないが、介護福祉職員の代表で参加させていただいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員への説明や勉強会など開催することができず、支援できる体制が整っているとはいえない。		社会福祉協議会等から資料を取り寄せ、勉強会等を開き、知識を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成18年度に長崎県身体拘束ゼロシンポジウムに参加し、職員に伝えてはいるが、高齢者虐待防止関連法までの専門的な物は伝えてはいる。		高齢者虐待の基本、擁護者による虐待への対応、市町村と地域包括支援センターの関係、養介護施設従業者等による虐待への対応等の載るマニュアルを少しずつ職員へ伝えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取って説明をし、納得して契約を結んでいただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご自身の思いなど、上手に表せない利用者に対し、言動や行動からご本人の意向を探るよう努めている。</p>	<p>ご家族の面会時等に、ご家族にしかわからない変化など助言をいただくようになっている。ホールにご意見箱を設置してご意見を出せるようになっている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、「あすなる通信」を発送し、少しでもホームでの様子をお知らせするようになっている。金銭管理は、月毎の使用明細を送付している。健康状態は特変がない場合は、面会時にある程度報告し、異変等あった場合は、連絡を取り報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や行事、家族会などで問いかけを行っている。</p>	<p>ご家族の面会時等に、ご家族にしかわからない変化など助言をいただくようになっている。ホールにご意見箱を設置してご意見を出せるようになっている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のスタッフミーティング時に意見交換を行っている。(場合によっては、数回行う)</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や生活のリズムに合わせたローテーションを組み、柔軟に対応するよう努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員交代による利用者のダメージを防ぐよう引継ぎ面やフォローを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講出来るようにしている。研修報告書を職員が閲覧できるようにしている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会があり、その中で意見交換をしたり、職員研修を設けていて、質の向上に取り組んでいる。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現状では、満たされていない。	勤務時間内で気分転換できる休憩室の確保や休憩時間の確保を検討したい。(現状では、経済面で困難な状況)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経営方針に謳っている様に、スタッフ一人一人の意見を尊重し、「義務」と「権利」みたくようにしている。	「スタッフ提案書」を置き、職場環境にできるだけ反映させるようにしている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の求めていることや、不安を理解するために会話をし、コミュニケーションをとるよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族状況や家族が求めていることを理解するように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のケアマネと連携しながら、必要に応じて他のサービス機関につなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に職員が面会に行ったり、本人さんに訪問してもらいホームの雰囲気などを少しでも肌で触れていただき、馴染んでいただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識は持たず、お互いが協働しながら、穏やかな生活ができるよう場面作りや声掛けを行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを把握しながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と家族と共に支えるために支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するとともに、よりよい関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人などは、訪問されることはあっても、本人が出かけて行く場面を作っていない。		電話や手紙での連絡を取り持つなどつながりを継続できる支援をしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も多くの会話をもつようにしたり、役割活動等を通じて利用者どうしの関係が円滑になるような働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した方に会う機会を持つようになっているが家族とはなかなか会えない状況である。		契約終了後も家族の相談にのったり支援していける関係を築いていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に本人のバックグラウンドに関する情報を収集し、ご本人の全体像を知る取り組みを行っている。又、生活の中で生い立ちや印象に残っていることなどを会話に取り入れながら、生活歴の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、できないこと、できることを察知し把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いをきき、反映させるようにしている。職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録し、いつでも職員が確認出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう民生委員と意見を交換する機会を設けている。ボランティアの受け入れも行うよう努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	いつでも他のサービスを利用できるよう外部ケアマネと連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議開催時に地域包括支援センター職員の方にも参加していただいている、情報交換や協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の提携医療機関に相談し、助言を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師と通院時や電話での相談を行い、日常の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、職員が見舞等に行き、医師、看護師に状態の様子などを伺い、ご家族と相談しながら協働連携を取っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身状態の状況により、ミーティングの議題に上げ、それによりかかりつけ医、ご家族とを交え、話し合うようにしている。		医療連携体制の整備を検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアへの取り組みは行っていないが、現時点でのホームの力量等を踏まえ、ミーティング等により判断し、ご家族、かかりつけ医と相談しながらその準備に備えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の機関への転居される場合、今までの生活習慣等の情報交換を行うようにしている。また、ご家族等の了解をえて、面会など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	各入居者に合わせた、声掛けや介助を行い配慮に努めている。	細部に渡る、配慮にもっと細心の注意を払い、サービスを行ってきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者と過ごす時間の中で、嗜好などを見極め、本人が選びやすい場面づくりを心がけるよう努めている。	職員が決めた事を押しつけるような事はせず、利用者重視の暮らしを求めている。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	買物や散歩など利用者のタイミングがそぐわない事が多々有るが、時間をずらすなど、出来るだけ希望に沿うように努めている。	事業所の生活リズムと利用者の生活リズムの差が出来るだけ広がらないように努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	近隣の理美容院で希望に合わせたカットや毛染めを行っている。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	メニュー作成担当者は、利用者と共にメニューを考え、ホームの家庭菜園でとれる食材を利用している。食事前の準備、後片付け等、利用者の役割分担を考え支援している。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	嗜好な物を取り入れるようにしている。お酒、タバコなど健康維持に反し、悪化をたどる方には、かかりつけ医、ご家族を含め本人に了解を得て禁酒、禁煙で日常を過ごして頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者には時間を見計らってトイレ誘導を又は声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り本人の意向に沿うようにしているが、夜間帯の入浴利用は勤務体制上、危険が伴うため、実践できない。		日中の入浴順番等には出来るだけ、希望に沿うようにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。一人一人の体調や表情、希望を考慮しながら支援している。		もう少し、散歩など外での活動を増やしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片付け、読書、農作業とその方の経験、知恵を発揮できるように支援している。		近隣の散策などを日常的に出来るように、支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、預かり金の管理は事務所にて行っている。		利用者によっては、会計時にご自分で支払って頂けるようにしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員で外出計画をたて、外食、ドライブ、見学など気候、利用者の健康状態を考慮し行っている。		一人一人に行きたい場所などを伺って、希望に沿えるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節がらに合わせた外出計画の実施を行っているが、個別になるとなかなか行えないのが現状である。		ご家族意向の同伴で外出、外泊は利用者の健康心身状態が良好であれば制限していない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族など連絡を取りたい時などは、職員を通じて連絡ができるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等、気軽に訪問出来るような雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践はできている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室にドアに施錠設備を設置していない。日中、玄関の施錠は行っていないが、夜間帯の夜勤者以外の勤務者が退社してから施錠している。		利用者が外出されようとしている場合は、制止することなく自然に付添うにしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録物記入時等もリビングで行い、自然に所在の確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一般家庭で行う程度にしてある。各利用者の服薬は別室にて保管してあるが、その他は適材適所にあり危険性が伴う場合は、声掛けや付添いを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者に応じた事故防止策は講じている。事故が起きた場合にも迅速に対応し、ご家族へも連絡を入れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアル等は整備してあるが、全職員が定期的に訓練を受けていない。		消防署や市町村の行う訓練などに積極的に参加していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	小浜消防署愛野分署の協力を得て、避難訓練、消火訓練、消火器操法など行っている。地域住民への訓練時の告知などは行っている。		災害時の非常用食品・備品などの整備が出来ていないので、準備したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所前情報収集から入所に至るまでに、その方の身体状況など把握し、ホームで生活する上で、危険が伴う事を説明しています。また入居後、状況の変化があればその都度連絡、説明を行い対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックに始まり、排泄チェック、水分チェック、食事量のチェックなど行い、利用者の表情、行動を見ながら、変化があれば申し送り等で情報の共有をしながら体調変化の早期発見に努めている。		もっと些細な変化にも気付けるように努めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者別の処方箋コピーを綴り、服薬量の変更等があった場合など、申し送り時など全職員に周知するようしている。		誤薬の再発を防ぐ為に、担当職員は服薬袋の名前を口に出し、他職員に確認を行いながら服薬して頂いている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品の飲用、軽い運動など促し出来るだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。		自然排便が困難な場合は、かかりつけ医と相談し服薬で調整を行っている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に歯磨きの声掛けを行い、口腔ケアに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報の共有をしている。病院を通じて栄養管理が必要な方には、管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、ご家族、利用者に了解をとり、職員を含めて予防摂取を行っている。ノロウイルス等はマニュアルを作成し対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは、毎晩漂白し、清潔を保っている。食材も購入時に賞味期限、新鮮度等確認して選んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地周りには、植木や植物、野菜などを育て季節感を演出している。		植える場所が限られているので、花や野菜が入り混じり他では見れない格好になっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは建物の中央にあり、少しでも光を取りこむ為、天窗を2ヶ所設けている。玄関は両棟共通の多目的ホールに直結している為、広々とした空間にしてある。圧迫感のないように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングには、食卓とソファ、テレビ、畳の空間があり、気の合う利用者同士一緒にソファに座りテレビをみれるようにしたり、テーブルを囲み話しが出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	使いなれたタンスや衣類、日用品、写真等、馴染みの物の 持ちこみをお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	気になる臭いが出る場所は、換気扇の使用、掃除、消臭剤 などにより対応している。温度調節は利用者のご意見、様子 などを考慮し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	浴室、共用トイレ、居室トイレ、リビング、ホール壁への手摺り の設置をしている。居室は利用者、ご家族と相談しベット又 は畳にしている。畳の場合は、畳とフローリングの段差の解 消をするためスロープを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	場合によっては、変更する事はあるが、ソファ・テーブルの 位置を決め、各利用者の決まった座席を確保し、生活リズム を崩さないようにしている。		共用のトイレと浴室入口には案内板、各居室には表札を 貼っている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	共用の畳スペースからウッドデッキに行く事ができ、そこから 庭の植木、花、野菜などを眺め、楽しめるようにしている。駐 車場、玄関横にはベンチを置き、日向ぼっこや休憩ができる ようにしている。		ベンチの数や日影を作り、建物内だけではなく建物外にも くつろげる場所を設けていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の思いに耳を傾け、職員すべてが情報を連携しあい、心身の状態や気分、感情で日々変化する利用者を注意深く、温かく見守るようにしている。
- ・週一回の音楽療法を開催し、利用者自身の精神力・心身の向上を図り、又、他の利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。
- ・毎年6月にホーム主催の「あすなる祭り」を開催し、地域の方達に来て頂くようにポスターを作成し、町内の主要な場所の方達のご協力を得て掲示させていただきご来場いただいている。今年は6月ではなく10月に開催することを予定している。